

鹿児島の動物49

錦江湾の深海エビ・魚類

動物担当 池 俊人

2019年11月の2日間、鹿児島大学附属練習船「南星丸」での、錦江湾の深海動物調査に同行する機会を得ました。普段見る機会の少ない、深海性のエビ類や魚類を観察することができましたので、その一部を紹介したいと思います。



南星丸



底引き網による採集

船上で種ごとに選別

たいです。以前は地元でわずかに消費されるだけだったのが、最近は美味しいエビだと有名になり、高級エビとして流通するようになったことは、うれしいことだと思います。

ナミクダヒゲエビは、4本に分かれた触角を束ねてパイプ状にすることで、シュノーケルのように海水を取り入れて呼吸します。深海の海底に潜って生活するために、このような能力を身につけたのでしょう。

個体数はわずかでしたが、2018年に新種として発表されたばかりのサツマテッポウエビも観察できました。



採集直後のサツマテッポウエビ

深海エビ



ヒメアマエビ



ナミクダヒゲエビ



サルエビ



トントコシロエビ



イズミエビ



シラエビ

全部で約10種のエビ類を観察しましたが、その中で最も数が多かったのは、ヒメアマエビでした。小型ですが、から揚げやかき揚げにすると美味しいそうです。頭部の額角が長いので、頭部を外して調理をした方がよい

深海魚



採集された深海魚の一部

シビレエイ、アイアナゴ、ニセツマグロアナゴ、イワハダカ、キュウシュウヒゲ、シオイタチウオ、マルヒウチダイ、ワキヤハタ、オオメハタ、カゴカマス、ボウズコンニャクなどの、多くの魚類を観察できました。小型ではありますが、意外に美味しい魚も多いそうなので、機会があれば賞味したいものです。

今回の調査同行にあたり、鹿児島大学水産学部の大富潤氏と南星丸の皆様方に、大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。